

八月半ばに始まった秋学期も終わりに近づいてきました。第二回のレポートでは、学校生活やアメリカの祝日について紹介しようと思います。学習面は授業や課題の量にもだいぶ慣れてきて、心にゆとりが持てるようになりました。かといって、語学力が圧倒的に向上しているとは感じていないので、英語圏での生活に慣れたことに安心せず、日常でも積極的に英語を使って行こうと思います。特に会話はまだ拙いので、失敗を恐れずどんどん話していきたいです。11月の中旬から来学期の履修登録が始まりました。まだ今学期も終わっていないのに来学期の履修計画を考えないといけないことに少し驚きましたが、人気な授業は先着順で定員になってしまうので私も急いで登録しました。

最近では日本人にはないアメリカ人の寛容さに感心しています。例えば、授業中の飲食でハンバーガーをがっつり食べる人がいたり、受講中の生徒の途中退室（電話に出るため、水筒に水を汲みに行くため）は毎授業であります。教授が子供を連れてきて面倒を見ながら講義をしたり、逆に生徒が子供を連れてきて授業中に赤ちゃんが部屋の中を歩き回るなんてこともありました。日本でも受容されているものもいくつかはありますが、周りの人が過ごしやすい雰囲気や場所づくりをする日本人の特徴を考えると、あり得ない状況が日常に存在するのはとても興味深いです。

日本の秋は、木々が色づいて風が冷たくなり秋の花が香り虫が鳴きはじめ、食事は旬の食べ物を使った料理が出始める、という季節感がありますが、年中温暖な気候のフロリダでは、その季節の訪れを感じる事ができません。つい先日までセミが鳴き続けていて、未だに日中は半袖で過ごすほどの暖かさです。日本にいたころは秋冬の寒さが嫌いでしたが、フロリダで過ごす今はその季節感が恋しいです。アメリカ人の友人に尋ねたところ、季節だからといって花や虫を気にしたことはないそうです。一概には言えませんが日本人の四季の感覚はとても情緒あふれる一つの日本文化なのだと感じました。

アメリカのこの時期はハロウィンやフォール・フェスティバルを始めとする多くのイベントや休日があり、特に11月のサンクスギビングホリデーから12月のクリスマスまではホリデーシーズンになります。サンクスギビング（感謝祭）デーはルームメイトの家族と過ごしました。集まった家族や親戚で大きな食卓を囲み、ターキーの丸焼きやアップルパイなどの料理を食べながら家族の時間を楽しみました。とても和やかな雰囲気でした。私は行きませんが、サンクスギビングの次の日の金曜日はブラックフライデーと呼ばれ、どの店も破格の値段でのセールをします。多くのショッピングセンターやアウトレットは買物客で賑わい、開店待ちの行列ができる店もあるほどだそうです。おそらく日本でいう新年の初売りセールのような感じです。サンクスギビングデーの次の週の月曜日はオンラインショッピングが破格のセールを行うサイバーマンデーもあり、多くの人がこの時期に買い物をするそうです。サンクスギビングが終わった今、街中のどこもかしこもがクリスマス仕様になり、音楽もクリスマスソングがかかり気分はもうクリスマスです。約3週間ある冬休みとクリスマスは期末テストが終われば始まるのでとても楽しみです。

(右：ホストファミリーと飾ったクリスマスツリー)
(左：サンクスギビングディナー)

